

結  
yui

2012. 11. 11

No.48

# 7周年記念のつどい開催!

2012年  
12/15 (土)

## 筑波学院大学大講堂 & 1階食堂にて

2005年に設立された憲法9条の会つくばは、今年、7周年を迎えます。そこで「7周年記念のつどい」を、年を締めくくる行事として、12月15日に開催することに致しました。

記念講演は一橋大学名誉教授で、全国「九条の会」事務局の渡辺治さんにお越し頂き、「憲法を力に、未来をひらく」と題して、憲法が存在が益々重要になっているいま、憲法を生かすこれからの活動についてお話して頂きます。

また恒例の和太鼓演奏、そして今年は橋本実さんのうたごえステージ、賛同人の方々から9条に寄せる思いを「わたしの主張」として語って頂く予定です。講演後は1階の食堂に移り、お茶やお菓子を頂きながら参加者の皆さんと交流する「9条カフェ」を今年も開催。

憲法が危機にさらされている今、一人でも多くの方につどいにご参加頂き、平和への思いをかたちにしていければと思います。皆さまのお越しをお待ちしています。

(7周年のつどい実行委員会)



### 記念講演

## 憲法を力に、 未来をひらく

渡辺治さん：1947年東京生まれ。東京大学法学部卒業の後73年より同大学社会科学研究所を経て、現在は一橋大学名誉教授。専門は政治学、日本政治史、憲法学。「九条の会」事務局。『日本国憲法「改正」史』（日本評論社）『増補版 憲法改正』（旬報社）『憲法9条と25条・その力と可能性』（かがわ出版）ほか多数。

### 渡辺治さんからメッセージ

大企業本位の構造改革の政治、日米軍事同盟を強化する政治を何とかしてもらいたいという国民の期待を背に受けて、3年前政権交代が起こり民主党政権が誕生しました。ところが、財界やアメリカの圧力を受けて民主党政権は変節し、消費税引き上げ、社会保障費の新たな削減、原発再稼働、TPP、そしてオスプレイの配備など、憲法を壊す政治を強行し、国民の期待を裏切っています。しかもこれらの悪政は、民主党単独ではできないので、民自公3党連立による「大連立の政治」が進められようとしています。

国民の中では、民主党もダメ、かといって自民党に戻るのもいや、というわけで、橋下維新の会に期待する声も上がっています。閉塞感が強まっています。

どうして、政治はこんなことになっているのでしょうか。こんな政治の下で、憲法の生きるくらし、地域、社会をつくるために、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか。ともに考えてみたいと思います。

- ◇プログラム（予定）◇
- 13:00 開場
  - 13:30 開会  
和太鼓演奏  
橋本実さんステージ：  
歌でつながる  
“つくば”から“福島”へ
  - 14:00 9条の会つくば活動報告
  - 14:15 私の主張・9条に寄せる思い
  - 14:35 渡辺治さん講演  
「憲法を力に、未来をひらく」
  - 16:05 9条カフェ  
楽器演奏  
お茶とお菓子を頂きながら感想の交流  
みんなで歌おう
  - 17:00 閉会



# 憲法9条に危機せまる!



## 政治への不満が改憲に誘導されている

尖閣諸島、竹島などの領有権問題で中国、韓国との関係が悪化する中、国民の憲法観に変化が現れています。9月15日付毎日新聞紙面で発表された全国世論調査によると、「改憲賛成」は65%（09年度9月前回調査より7%ポイント増）で過去最高となりました。反対は27%で前回より5%ポイント減です。「9条改憲」に賛成は56%、反対は37%、「改憲要件の緩和」（3分の2から過半数へ）も賛成が51%と過半数を越えました。また、「国政の停滞について憲法に原因があると思うかどうか」という設問がなされ、「思う」と答えた人が57%で「思わない」の36パーセントを大きく上回っています。

自民党の総裁選では超タカ派の安倍晋三氏が再選され、早速憲法改正の発議要件の緩和を次期衆院選の争点に掲げる意向を示しています。（9月30日京都府での講演）。去る5月には自民党、みんなの党、たちあがれ日本の3党が相次いで改憲案を発表しましたが、10月10日には「日本維新の会」と連携する「東京維新の会」が東京都議会で戦前の「大日本帝国憲法」の復活を求める請願に賛成するという時代錯誤的な状況が起こっています。

上記世論調査の結果や政局の動きを見ると、領有権問題の解決の稚拙さや国政上の諸問題の大きさに対して、国民の中に醸されているいらだちや不安の気分が、狭隘な愛国心を煽り、軍事的圧力による解決を求める方向にうまく誘導されている危険を強く感じます。領土問題については、国民の間にもその歴史的経過などがほとんど知らされていないまま、近隣諸国との軋轢をあおるマスコミの論調などが目につきますが、それぞれの国が主張する領有の歴史的、政治的根拠については専門家の知見を含めた外交努力によって時間をかけて解決する問題だと考えます。

## 憲法9条を世界に向けて守り抜く

こういった情勢を受け、2012年9月29日（土）日比谷公会堂で、「民主主義が試されるとき」と題する「九条の会」講演会が開催されました。その案内には、「九条の会」アピールの言葉が改めて記されていました。「私たちは、平和を求める世界の市民と手をつなぐために、あらためて憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えます。そのためには、この国の主権者である国民一人ひとりが、九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。」

大江健三郎さんは「この国は民主主義の国でしょうか？」と問いかけ、政府の「原発稼働ゼロ」の方針がアメリカ、日本財界の圧力で空洞化された経緯に触れ、「沖縄のオスプレイについて考える人たちと、原発再稼働反対の大きい運動は二つとも実は憲法にかかわっています。憲法9条を世界に向かって守り抜く、あらゆる国に対して『守るよ』と示すことが、今の日本の民主主義にとって、最も重要なことです」と述べました。

奥平康弘さんは、自民党や「日本維新の会」が改憲手続きを定めた憲法96条の改定を正面に掲げ9条の改悪を狙っている現状を指摘し「9条の会が立ち上がったときの魂が問われている」と強調、「9条の会の活動を進めて、9条の魂を再び、選び取ろう」と呼びかけました。

澤地久枝さんは民主、自民両党の党首選にふれ、原発再稼働や集団的自衛権の問題を批判し、こう呼びかけました。「日本が民主的な国として、市民が市民らしく生き、命を大事にする国にするために、一人ひとりの意思と勇気が試されています。私たちは未来がどういう未来になるのか、いま選択する場所に立っています。」

小森陽一さんからは「ここで9条の改悪を許してしまうのか。現在7500の9条の会があり活動が続いている。この60年代の安保運動を上回る9条の会の草の根からの運動を、ここから改めて活動を起こしていくことが、この国の方向を変える最も大きな力になる」と、呼びかけ人を先頭にした憲法セミナー、事務局主催の連続講座の開催と共に、全国津々浦々の9条の会で、草の根の学習会・憲法セミナーをどんどん開催し、行動と対話を積み重ねていく活動が提起されました。

9条に危機が迫る緊急事態ともいえる今、こういった呼びかけ、言葉が市民一人ひとりに届くのか、つくばでできる活動とはどういうものなのかを賛同人の皆さんと知恵を出しあい、今後、会として提起できればと考えます。皆さまのご意見をお寄せ頂き、平和への思いが結集できるような活動・行動につなげていきたいと思いを。  
（文責・「結」編集委員会）

# 座談会

——改憲の危機を賛同人と考える

## 今、憲法を巡る動きにどう対処するのか

今号「結」では「憲法を巡る動きにどう対処するのか」と題して賛同人の方々にお集まり頂き、憲法を巡る動きについて考える座談会を企画しました。民主党議員の多数が憲法9条を変えようとする勢力であること、自民党代表に改憲を標ぼうする安倍晋三氏が再登場したこと、そして「維新の会」などの動きにどう対処していくかについて意見交流しました。



プラス  
編集委員  
の皆さん



**樋田幸夫さん:**  
9条の会つくば代表



**Aさん:** NY生まれ、来日21年  
**Tさん:** 広島に10年、つくば在住4年



**N:** 3児の母、つくば  
在住20年



**司会・長田満江さん:**  
9条の会つくば代表

### 最近、気になること

**司会:** 本日司会をさせていただきます9条の会つくば代表の1人、長田満江です。今日の座談会のテーマは「憲法を巡る動きにどう対処するのか」、今、憲法9条はかつてない最も厳しい状況にあるといえるのではないのでしょうか。まず最初に自己紹介しながら、憲法に関連し最近気になっていることを一つ挙げて頂ければと思います。

**樋田:** 9条の会つくばの共同代表の1人です。群馬県生まれです。今一番気になるのが、領土問題を口実にして日本の軍備強化を正当化する理論づくりの強まりが怖いと感じます。漁師の方は生活がかかっている、そういう人たちにとって領土問題は生きることに直結した問題といえますが、それを利用して日本の軍備強化を図ろうとする動きには警戒しなければならない。

**Aさん:** アメリカニューヨーク州出身で来日21年目、つくば在住は今年で8年目です。気になっていることは教育基本法の改正(改悪)です。少し読んでみて不安を感じずにはいられない。日本の教育が戦時下の国民学校の様になり、今よりもっと厳しくなるのではないかと。「将を射んと欲すれば先ず馬を射よ」のことわざにあるように、将軍である9条を変えるために、将軍の馬である教育基本法を先に撃ったとも考えられます。さらに憲法の改正手続(憲法96条)が変えられると9条がますます危うくなると心配です。

**Nさん:** つくば在住20年以上です。大学でつくばに来て結婚子どもが3人います。世情にはうといんですが、子ども達を戦場におくらない母たちの運動はとても大事だと思っています。母親になってみて子どもたちのためには女性が強くなり、絶対に戦争はしないの声を発信していかなければと思っています。

**Tさん:** 広島から京都に移り、つくばに来てから4年になります。最近気になっていることに、「週刊朝日」誌における橋下徹氏との一連のやりとりの中で、人権感覚

を無視した週刊誌の表現が問題になっていることです。市長選の折にも文春、新潮二つの週刊誌が橋下さんの出自についての記事を掲載し、そのことへの反発もあり有権者の票が流れた、ということがあったそうです。大阪の橋下さんは、ファシズムを感じるとんでもない人です。しかし、今回の週刊朝日の記事は、マスコミ側が人権意識を鈍らせる役割をはたしていきのではないかと危惧を感じています。もちろん橋下さんの政策がおかしいということはきちりと言っていかなければならない、けれど今回の記事のような人権を無視した報道は問題だと思っています。

**樋田:** 個人的なプライバシーを暴くような誹謗中傷はあってはならないと思います。ただそれによって支持層が増えたとは思えない。国民はこの点の区別はしっかりしていると思いますが、マスコミは橋下さんの報道、評価について混乱状態のように見えます。

### 領土問題をどう見るか

**司会:** 皆さん、何かしなければならぬという感じはもっているのです。このままでは大変だ、みんながもっと政治に関心もって賢くならなければという思いがありますね。問題はたぶん三つくらいにまとめられるのではないのでしょうか。

一つは領土問題を盾にして愛国心をかき立てて日本の武力強化を図ろうという勢力の問題、二つ目は橋下イズムに対する世論、あるいはマスコミの動きに対する我々の対策が弱すぎるのではないかとということ、三つ目はアダムさんも発言されていた教育の問題ですね。もう一つ言えば原発の問題も入ると思います。この問題に取り組むことで命の問題が大事だということに全てが集約されていく、そのことが9条運動の閉塞感を打ち破る突破口になるのではないかと考えたりします。ではまず領土問題について皆さんにご意見をお聞きします。

**樋田:** 人類の国としての領土、縄張り問題は、相当根

深い問題として考えなければならない。直面している尖閣・竹島の問題については、日本の領土であることにこだわらない方がいいのではないかと思います。歴史的にみてどの国が島を占有して利用してきたかを重視して考えて、韓国、中国、日本で時間をかけてじっくり話し合う必要があります。漁業をしている方々について、日本、中国、韓国それぞれの国が三方一両損方式で譲るところは譲り言うべきところは主張して、民のレベルの交流と話し合いで道が開けるのではないかと思います。

また政党全体で領土問題懇談会のようなものを多角的にやったらどうかと。冷静にとらえること、武力の強化とか戦争に結びつくような方向は論外であり許されない、基本的には話し合いだと思います。

**司会**：愛媛県議会で自民党県議団が出した韓国大統領の言動に抗議する意見書で、「中国における邦人・日系企業等の保護と我が国の領土主権の護持に関する決議」の審議にあたり、県議の阿部悦子さんという方が反対答弁をしようとしたら、ほとんどヤジで話させてもらえなかったというメールをもらいました。

尖閣・竹島は、第二次世界大戦に至るまでの日本の占領政策の中で日本が領土化したものであって、裏返せば元々は日本領土ではなかったのです。それが何で今頃出てきたのかというと、これまで日本が戦争責任について一切取り組んでこなかった結果です。日本の戦争責任を曖昧にしてきたことが基本にあり、深刻な問題だと思います。

## 他国が攻めてきたらどうするの？

**司会**：9条を変えない署名をしていると、北朝鮮や中国が攻めてきたらどうするのか、と言われて断られることがあります。その時どう答えるかで悩む。武力には武力というのはだめで、イラク戦争や第二次世界大戦と同じで、そういう解決法は解決にならないと説得するのですが納得してもらえない。その点どう思いますか？

**Aさん**：石原慎太郎氏は、自分たちの家に強盗が「入るぞ」と宣言しているのに戸締りをしない国がどこにあるのか（6/11衆院決算行政監視委員会での発言）とか、相手がピストルを持っていたら自分も持たなければというようなことを言っていますが、外交を「隠喩」で言うのは間違いで、「強盗」とか「戸締り」のような言葉は使うべきではありません。外交問題はもっと複雑だし、勉強しなければならない問題です。

署名では「日本は平和ボケだから」と言う人がいますが、それを言うならアメリカは戦争ボケですよ。戦争を引っ張っている指導者はあまり苦労しないんです。虎の尾を踏んだら指導者はすぐ逃げます。戦争状態になれば一番苦しむのは普通の国民です。

**Tさん**：経済を訴えるのも一つの方法だと思います。戦争は長い目で見ると破壊であり、経済にも大打撃であることは過去の歴史がすべて物語っています。領土問題でも中国や韓国も本音のところでは日本と喧嘩したくな

いはずで、その根底には経済があります。支配者たち、政治の中枢にいる人たちが軍需産業を作っていきたいというもろろみに騙されてはいけない、そのことを訴えていくことが大事ではないかと思います。

**司会**：本当はお互いに戦争はしたくない。でも中国や韓国は軍需産業を潤していけないと国民を雇用していけないという事情もある。でも日本は軍需産業がなくても何とかやっているわけで、向こう様は本当に戦争はしたがっていないのでは？ということですね。

**Nさん**：子どもは戦争したくないと言うんですが、女の方でも相手が鉄砲を持ってきたらこっちも鉄砲で対抗するということを言いますか？

**司会**：言いますよ。

**Nさん**：家では、もし泥棒が入ったら部屋にあるものを全部投げ出して、命が大事だからとにかく逃げるってことで話してますので（笑）槍を持ってきたら槍で対抗するというような話はしてないんです。

マスコミがテレビで垂れ流す情報は、よく考えなくてもずっと耳元でささやかれ続けると、あたかも自分がそう思っているかのように考えてしまう、洗脳効果が大きいのではないのでしょうか。マスコミが改憲側の言葉を取り上げて、押しつけられた憲法とか、ずっと流し続けることで世論に大きく影響を与えてしまう。本当に戦争になったらどうということになるのかの情報は無い。

**司会**：自分の身に起こることとは考えない。特に若い男性たちがどうも手に負えない（笑）。戦争になったらあなたが徴兵されて一番つらい思いをするのよ、と言っても、それは自分のことではないという認識のようで、観念的に今の日本の状況ではだめなんだ、憲法を変えた方がいいという気にさせられているんです。

**樋田**：署名で若い男性には、どこかの国が攻めてきたら逃げるといった方法は考えたことがありますか、それとも向き合って自分の命をかけますかと問うと、話が中断し、あきらめて署名する人もいます。韓国のように徴兵に応じ、あなたは命をかけられますか、と問うこともあります。

## 教育は本当に大切だ！

**司会**：次は教育の問題です。教育基本法が改悪されて、先ほどアダムさんから戦前の考え方に近いのではとのお話がありましたが、いかがですか？

**Aさん**：9月21日の朝日新聞で、長野県中川村の村立学校では国旗に向かって一礼するという姿はないと伝えました。

曾我逸郎村長は「国旗に敬意を示すとい



うのは、国家が上にあり、その下に自分がいるという問題設定です。本当の国民国家であれば、持つべきは敬意ではなく誇りであるはず」と言っています。国家が上にありその下に自分がいるというのはファシズムの新しい教育制度ではないでしょうか。子どもたちに、自分の意見は価値がある、政府の言いなりにしなくていいんだと伝えたい。臣民ではなく国民なんだから、意見の自由はある。自由思想でいいのです。

**Nさん**：教育の問題では、戦争に行く行かないの問題だけでなく、社会に属している参加意識が薄くて、自分も含めて誰かがやってくれるだろうと思っているくらいがあります。社会に責任を持つ当事者であるという意識が薄い。戦場に行くのは自分だという実感は、本当に戦地に行かないと「しまった」という気になれないんじゃないかとさえ思います。すごく怖いです。

**司会**：全てのことが教育問題に行き着く。教育基本法が改悪された結果、どう教育内容が変わり結果どうなったのかを突き詰めて検証することが必要だと思います。

**Tさん**：ゆとり教育と併走しているので、子どもたちへの影響が新教育基本法のせいなのか、ゆとり教育の影響なのかの分析は難しいです。ただ道徳教育は月曜日に持ってきてはいけなと聞きました。ハッピーマンデーで祭日が多いからだそうです。「心のノート」(道徳副読本)は重要な科目で、算数や国語より重要視されているということです。それなのに「心のノート」は教科書ではないので展示公開されず中身を見られないし、家に持って帰らせないという対策をとっているところもあるようです。美しい言葉で子どもたちの心をコントロールしようとしているみたいに思えます。

**Nさん**：今の社会では集団の方向性が大切にされています。会社でこき使われるような状態が当たり前で、個人の命や主義主張、個人の要求については一段低いとみられ、我慢を強いられる。自殺者が増えたというのも個人を尊重するより、集団や組織を優先する結果なのではないかと。全ては自己責任で、学校・社会のあり方は問われない、社会的に鬱積した状況になっています。そこを変えていかないと自由に社会に発言していく雰囲気は生まれません。

## 橋下イズムとこれからの9条運動

**司会**：改憲勢力の中心ともいえる橋下氏率いる日本維新の会は次の選挙では200名の候補を当選させるという話が出ています。どうして橋下氏がこんな高い支持率を保ち得ているのか、この状況をどうしたらよいか、忌憚のない意見を出してください。

**Aさん**：橋下氏は弁護士で、そのスタイルはとてもアメリカ的です。アメリカの政治家の9割は弁護士で、理想の話ばかりしています。これは橋下氏の得意なところだと思います。理想を語るというかたちで自分の考えばかり言っている。そういうものはメディアに受けやすく、アピールもうまいので人気があります。9条の会も

## 関連コラム

2006年12月15日に、改正教育基本法が成立、主な相違点を上げると

### (義務教育) 第5条

2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

「普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない」(前文)に示された理念が、国の構成員としての資質を養う方針に転換されている。

**Hさん補足**：新教育基本法では、教育を個人の人格の完成のためではなく、国家・企業の人材育成のため使おうとしています。国家のための人材育成というと戦前教育のイメージがあって抵抗があるので「グローバルな国際社会のための人材育成」という言い方にすり替えられています。国際教育という言葉で語られる内容には、十分注意する必要があります。

とメディアを活用していくといいと思います。数年前に保育園の民営化に反対して茨城新聞にメッセージを書き、記事として伝えることができました。私たちが利用できるメディア、つくば・県内のメディアとのつきあいを大事にしていくのがいいと思います。

**Tさん**：メディアに何を訴えていくのかですが、橋下イズムの強権的な部分ですね。「公務員・市役所は大阪市民を支配し命令している」などと言って特権階級を変えるためには強権的な手法も辞さない、まさに憲法をめちゃくちゃにしていく、その怖さを知らせていくことが大事だと思います。

**司会**：今広がっている原発問題と9条の問題は、コインの裏表ともいえます。この問題のつながりがなかなか伝わっていない。そこをどうつなげていくかがこれからの9条運動の広がりにつながってくると思うのですが。

**Nさん**：反原発では新しい形の市民運動になってきたと思いますが、広がっていくにはもう一つ壁がある。

**司会**：3.11震災があって、世の中が効率だけで進んでいく社会ではいけない。命が大事にされる社会をつくらなければという気持ちにみんななってきたと思います。それが具体的にどういう社会で、どうしたらそれが実現できるのか、まだ見えていない。様々な市民運動が関連しつながらどう収斂していくかを考えていかなければならないと思います。それができるのが9条の会なのではないかと。原発、福祉、教育、9条には全部が包括されます。「9条の会」は市民運動の要になれる可能性のある存在ということです。

**樋田**：だからこそ、この会の賛同を広めていくことが必要ですね。メディアも活用していきながら、9条の会が果たす役割の大きさを伝えていきましょう。

**司会**：今日はありがとうございました。(2012.10.23.)

当会では第1日曜日に定例署名行動、9日に西武前で9の日署名を行なっています。

10月は7日アルス前にて、10月9日には西武前で9の日署名を行ない、11月4日、9日にも署名行動を行ないます。定例署名、9の日署名、ご都合つきましたら皆さまのご参加お待ちしております。

## 🍃 10月の署名行動

10月7日(日)の定例署名行動は、天気予報に裏切られてあいにくの小雨の中、2名の方が参加しました。9の日行動の参加は、米国のDさんを加えて3名でした。11月の行動は、にぎやかにしたいですね。(事務局)

## 🍃 若い世代と戦争体験を聴く会

9月23日(日)降りしきる雨の中、7名の参加者を得て、蔵のカフェ・クラウドナインで栗栖恵子さんから当時の体験についてお聴きしました。

栗栖さんは3月10日の東京大空襲の日、東京にいました。北区王子のミッションスクールの1年生、4人兄弟の弟と妹は伊香保に集団疎開をしていました。空襲後東京が壊滅しているということで土浦の叔父さんが迎えに来て、それからずっと土浦に住んでいるそうです。

東京、土浦、伊香保3か所に家族が分かれたまま終戦まで過ごし、玉音放送をお母さんとさつまいもを食べながら聞いたことが印象に残っているとのこと。戦後弟と妹を迎えにお父さんが向かうと、親の迎えを待っている子ども達がたくさんいたそうです。弟さん、妹さんはお父さんと家族のもとに帰れましたが、残った子ども達その後どうなったのかはわからないとか。東京の子ども達の親は亡くなった人も多かったはず、残された子ども達のことを思うと胸が苦しくなりました。(S)

「落ち着いた部屋で和やかにお話を聞くことができ良かったです。特に戦争中より戦後の方が食料事情が悪く誰もが大変だったことが伺えました。これからも学校での講演など頑張ってくださいと思います。」(I)

## 🍃 憲法9条を守ろう!

### 「10.21 県南大集会」に270名が集う

今年の集会は、19日の繰り上げ開催となりました。10.21 国際反戦デーは1966年にベトナム戦争

## 「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2012年11月4日現在  
総数 885名 (市内 631名)  
◆9条署名 11月6日現在 13,694筆

反対のうねりの中で日本で生まれました。つくばでは毎年「学研労協」「憲法9条の会つくば」などの団体で実行委員会を設け、核兵器廃絶を始めその時々々の要求を掲げ、軍事・経済的に負担を押しつける日米安保条約に反対し、反戦・平和の闘いの場として引き継がれてきました。

主催者挨拶では、大震災からの復興にはほど遠く、原発事故は今なお収束の見込みが立たず、すべての原発を廃止・廃炉にし自然エネルギー利用への転換をすべきとの訴えがありました。

「9条つくば」からは、穂積さんが「領土問題」の平和的解決と、12月15日の7周年記念イベントへの参加を訴えました。9条署名活動を会場で行い、5人で54筆の「9条変えるな」署名を集めました。

集会は決議文が採択され、団結頑張ろうの後デモ行進を行いました。今年のシュプレヒコールは「原発いらぬ」「こどもを守れ」「オスプレイは帰れ」「いのちがだいじ」など簡潔明瞭な表現で、デモ出発前に発声練習をするなど気合いも入っており、行進中も多くの人の唱和が特に印象的でした。(H.N.)

## 行動予定

11月18日(日) 10:00~

第8回7周年のつどい実行委員会(予定)

24日(土) 11:00~市民活動フェスティバル  
宣伝活動、「すいとん」を販売

12月2日(日) 11:30~ 定例署名活動+イベント  
「シール投票」 憲法9条を守るか否かを「シールで投票」してもらいます

5日(水) 19:00~

第9回7周年のつどい実行(予定)

7日(金) 18:30~ 不戦のつどい:  
森住卓講演会「福島と世界の核汚染」

8日(土) 12:30~ 9の日署名活動  
憲法9条を守るか、否かの「シール投票」

12日(水) 19:00~

第10回7周年のつどい実行委員会(予定)

15日(土) 10:00~

第11回7周年のつどい実行委員会

## インフォメーション

### ◇秋の市民活動フェスティバル

日時: 11月24日(土) 11:00~15:00\*雨天は25日(日)  
場所: つくばセンター広場・ペDESTリアンデッキ  
9条の会つくばでパネル展示、「すいとん」の販売を予定。  
問合せ: つくば市市民活動センター TEL/Fax 029-855-1171

### ◇崎山比早子講演会

日時: 12月1日(土) 13:30~16:30  
会場: 筑波学院大学大教室  
講演: 「いのちを守る! 内部被曝と食べ物~低線量放射線のリスクは、なぜ過小評価されるのか?」崎山比早子さん(医学博士、福島第一原発事故調査委員)  
参加費: 前売り1000円 当日1300円  
主催: 脱原発ネットワーク茨城 TEL029-869-9108

### ◇不戦の集い—フォトジャーナリスト森住卓講演会

日時: 12月7日(金) 16:30~20:30  
場所: サイエンス・インフォメーションセンター(つくばセンタービル・ノバホールの隣り)  
講演: 「福島と世界の核汚染」森住卓氏  
参加費: 大人1000円 学生500円  
問合せ: TEL029-861-7320(学研労協)  
◇第2回「脱原発サミットin茨城」  
日時: 12月24日(月祝) 13:00~  
場所: 東海村東海文化センター  
講師: 小出裕章(京都大学助教) 三上元(湖西市長) 村上達也(東海村長)  
チケット: 前売り券1000円(当日券1300円)  
主催: 茨城の環境と人を考える会議 Fax029-274-2277